独立歩兵第七八二大隊略歴

通称号　奮進第三七五一六部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	浜江省哈爾浜において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。	
8 9	爾後教育訓練および同地付近の警備に任じた。 日「ソ」開戦にともない哈爾浜競馬付近の警備および哈爾浜市内の警備ならびに治安維持に任じた。	
8 23	哈爾浜香坊において武装解除。 同日香坊出発途中横道河子まで鉄道輸送。	
8 24	同地より行軍にて海林に向う。	
8 27	牡丹江省海林に到着。	
9 16	同地において第一〇八、第一四九、作業大隊に編入。	
10 中旬		
10 4	綏芬河経由入「ソ」。	
11 29		

大隊長　大尉　竹下千秋

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三一旅団挺進大隊略歴

通称号　奮進第三七五一七部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	浜江省哈爾浜において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。	
	爾後挺進奇襲の教育訓練に従事。	
8 9	日「ソ」開戦にともない哈爾浜市内の警備および治安維持に任じた。	
8 23	哈爾浜競馬場において武装解除。	
	同日哈爾浜香坊出発、途中横道河子で下車し海林まで行軍。	
8 27	牡丹江省海林到着。	
9 10	海林において第一〇七作業大隊に編入。	
10 12	綏芬河経由入「ソ」。	

隊長　大尉　戸田三郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三一旅団砲兵隊略歴

通称号　奮進第三七五一八部隊

年月日	略隊	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	浜江省哈爾浜において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。	
	爾後現地応召者の教育訓練に従事ならびに哈爾浜付近の警備に任じた。	
8 9	日「ソ」開戦にともない哈爾浜市内の警備ならびに治安維持に任じた。	
8 23	哈爾浜成高子において武装解除。	
	同日哈爾浜香坊出発途中横道河子まで鉄道輸送。	
8 24	横道河子を行軍で出発。	
自 8 27	牡丹江省海林到着。	
9 16	海林において第一〇九、第一四九作業大隊に編入。	
至自 10 中旬		
10 4	綏芬河経由入「ソ」。	
11 29		
	隊長　大尉　推名　隆	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三一旅団工兵隊略歴

通称号　奮進第三七五一九部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	浜江省哈爾浜において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。	
	爾後主として兵器器材の整備および現地応召者の教育訓練に任じた。	
8 9	日「ソ」開戦にともない哈爾浜市内の警備および治安維持に任じた。	
8 23	哈爾浜南崗荘において武装解除。	
	同日哈爾浜香坊出発、途中横道河子で下車し海林まで行軍。	
自 8 27	牡丹江省海林到着。	
至 9 10	第一〇七、第一〇八作業大隊に編入。	
自 9 16		
至 10 4		
10 12	綏芬河経由入「ソ」。	

隊長　大尉　石原　勇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三一旅団通信隊略歴

通称号　奮進第三七五二〇部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	浜江省哈爾浜において第三軍、第五軍よりの抽出人員および現地応召者をもつて編成完結。	
8 9	爾後兵器、器材の整備および現地応召者の教育訓練に任じた。 日「ソ」開戦にともない屯営にありて待機、爾後主力は旅団司令部と同旅団隷下歩兵部隊および第四軍司令部間との通信連絡に任じ一部は対戦車壕の構築に任じた。	
8 23	哈爾浜成高子において武装解除。 同日哈爾浜香坊出発途中横道河子で下車し海林まで行軍。	
自 8 27	牡丹江省海林到着。	
9 5	第一〇八、第一〇九、第一四九、作業大隊に編入。	
至 10 中旬		
自 10 4	綏芬河経由入「ソ」。	
至 11 29	隊長　中尉　曾根碩男	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三一旅団輜重隊略歴

通称号　奮進第三七五二一部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	浜江省哈爾浜において第三軍および第五軍の隷下各隊の抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。	
	爾後旅団各部隊への兵器弾薬糧秣等の輸送業務に従事。	
8 9	日「ソ」開戦にともない哈爾浜市内の警備および治安維持に任じた。	
8 23	哈爾浜成高子にて武装解除。	
自 8 27	同日哈爾浜香坊出発途中横道河子で下車し海林まで行軍。	
至 9 5	牡丹江省海林到着。	
自 10 中旬	第一〇七、第一〇九、第一四九、作業大隊に編入。	
至 10 4		
11 29	綏芬河経由入「ソ」。	
	隊長　大尉　沢常次郎	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三六旅団司令部略歴

通称号　奮躍第三七五七三部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	北安省嫩江において第五国境守備隊と歩兵第二六九連隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。爾後嫩江付近の警備。	
自 8 15	停戦。	
至 8 17		
8 20	竜江省斉々哈爾に転進。	
8 20	斉々哈爾において武装解除。	
自 9 2	斉々哈示第二、第三、第八、第一二各作業大隊に編入。	
至 9 24		
自 9 2	斉々哈爾出発。	
至 10 10		
自 9 18	満洲里経由入「ソ」。	
至 10 23		
10 30	将校は斉々哈爾将校大隊に編入。	
11 1	斉々哈爾出発。	
11 2	満洲里経由入「ソ」。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

286の2

旅団長
少将　土屋直二郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第七九九大隊略歴

通称号　奮躍第三七五七四部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	北安省嫩江において第五国境守備隊の在幹人員と在満応召者をもつて編成完結。	
	爾後同地において陣地構築に従事。	
8 20	北安省嫩江において武装解除。	
9 10	嫩江において第三作業大隊に編入。	
9 12	嫩江出発。	
9 16	黒河経由入「ソ」。	

大隊長

大尉　間　手　原　瑞　夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第八〇〇大隊略歴

通称号　奮躍第三七五七五部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	北安省嫩江において第五国境守備隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。	
	爾後同地において陣地構築。	
8 22	嫩江において武装解除。	
8 30	嫩江において第二作業大隊に編入。	
自 9 22	嫩江出発。	
至 9 26	黒河経由入「ソ」。	
	大隊長	
	少佐　今井利清	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第八〇一大隊略歴

通称号　奮躍第三七五七六部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
	7	30	北安省嫩江において第五国境守備隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。爾後同地において陣地構築作業。	
	8	14	嫩江出発。	
	8	15	竜江省齊々哈尔に到着。その後浜江省安達に移動。	
	8	18	浜江省安達において武装解除。	
	9	23	安達出発。	
	9	29	北安省綏化に到着。	
	10	25	綏化出発。	
	11	17	黒河省へ	
昭21	2	12	黒河経由入「ソ」。	

大隊長　大尉　石井寅三郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第八〇二大隊略歴

通称号　奮躍第三七五七七部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
	3	30	北安省嫩江において独立混成第八〇旅団の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。	
	8	15	嫩江付近の陣地構築作業。	
	8	16	嫩江出発、斉々哈爾に移動。	
	8	20	竜江省斉々哈爾到着。	
	9	24	斉々哈爾兵器廠において武装解除。	
	9	27	同地において斉々哈爾第八作業大隊に編入。	
	10	3	斉々哈爾出発。	
			満洲里経由入「ソ」。	
			大隊長	
			大尉　当山朝得	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三六旅団挺進大隊略歴

通称号　番號第三七五七八部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	北安省嫩江において第一二五師団、第一一九師団の隷下よりの転属者ならびに在満応召者をもつて編成完結。	
8 9	開戦にともない嫩江付近において遊撃戦闘準備。	
8 13	齊々哈爾に転進のため嫩江出発。	
8 16	竜江省齊々哈爾に到着。	
8 20	齊々哈爾兵器廠において武装解除。	
9 15	同地において齊々哈爾臨時第二作業大隊に編入。	
9 16	齊々哈爾出発。	
9 18	満洲里経由入「ソ」。	
	大隊長　大尉　熊谷義男	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三六旅団砲兵隊略歴

通称号　奮闘第三七五七九部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	北安省嫩江において第五国境守備隊、迫撃第一七大隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。	
	爾後同地において陣地構築。	
8 9	開戦と同地に部隊は嫩江東方高地に配備一部をもつて兵器廠支部倉庫および弾薬庫の警備に任じた。	
8 16	嫩江出発。	
8 17	竜江省齊々哈爾に到着。	
8 20	齊々哈爾において武装解除。	
9 15	同地において齊々哈示臨時第二作業大隊に編入。	
9 16	齊々哈爾出発。	
9 18	満洲里経由入「ソ」。	

隊長　少佐　宮崎春雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三六旅団工兵隊略歴

通称号　奮躍第三七五八〇部隊
奮躍第三七五八一部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7、30	北安省嫩江において工兵第一一九連隊、独立混成第八〇旅団工兵隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。	
	爾後嫩江付近の警備および陣地構築作業。	
8 21	嫩江において武装解除。	
9 13	同地において嫩江第一作業大隊に編入、同日同地出発。	
9 21	黒河経由入「ソ」。	

隊長
大尉　永利敏夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三六旅団通信隊略歴

通称号　香蘭第三七五八二部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	北安省嫩江において第五国守備隊および第一一九師団通信隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。	
	爾後嫩江陣地通信網の整備および陣地構築。	
8 14	嫩江出発。	
8 15	齊々哈爾着。	
8 20	竜江省齊々哈爾において武装解除。	
9 24	齊々哈爾第八作業大隊に編入。	
9 27	齊々哈爾出発。	
10 3	満洲里経由入「ソ」。	

隊長　中尉　岡田博吉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第一三六旅団輜重隊略歴

通称号　奮躍第三七五八三部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
	7	30	北安省嫩江において輜重兵第一一九連隊および独立自動車第八二大隊の基幹人員と在満の応召者をもつて編成完結。	
	8	21	爾後同地において部隊装備兵器輸送および陣地構築。	
	9	13	嫩江において武装解除。	
	9	21	同地において第一作業大隊に編入、同日出発。	
			黒河省経由入「ソ」。	

隊長　少佐　片田寛三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一二遊撃隊略歴

（第三方面軍臨時遊撃第一大隊）

通称号　満第九八〇部隊　光第二六八九八部隊

年月日	略歴	摘要
昭19 9	軍隊区分により第三方面軍及第四軍隷下部隊からの差出し人員をもつて第三方面軍臨時遊撃隊を斉々哈爾において編成、同日第三方面軍司令官の指揮に入る。 編成 本部　（長中佐有富和夫） 大隊　三〃	
自 9 10	遊撃隊編成基幹要員の集合教育を斉々哈爾において実施。	
至 11 10	遊撃隊編成要員の綜合教育（野外訓練）を斉々哈爾、札蘭屯、神武屯において実施。	
自 11 11		
至 昭20 1 31		
5 中旬	本部、第二、三大隊奉天省新民に移駐と同時に第一大隊は第四軍司令官の指揮に入る。	
7 10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7 30	北安省嫩江において臨時遊撃隊第一大隊を基幹として第四軍隷下部隊からの差出し人員をもつて編成完結。	
8 9	第二大隊を混成第一三六旅団長の指揮に入らしめて嫩江に残置し部隊主力は斉	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		々哈爾に向い出発。
8	10	齊々哈爾着、同日齊々哈爾出発。
8	11	哈爾浜着、同地において遊撃戦準備。
8	15	哈爾浜において停戦。
8	23	浜江省香坊において武装解除、同日同地出発。
8	28	牡丹江省海林着。
9	4	主力は海林作業第一〇二大隊に編入。
9	23	綏芬河経由入「ソ」。
		嫩江に残置した第二大隊は八月二十二日嫩江において武装解除。九月十三日作第四大隊に編入後九月十三日から九月二十四日の間黒河経由入「ソ」。

隊長

少佐　一ノ瀬　滝　次

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

捜索第五七連隊略歴

通称号　光第七二一五部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭15			軍令陸乙第二二号により騎兵第八連隊留守隊を捜索第五七連隊と称号を変更。	
昭16	7	17	編成下令。	
	8	5	弘前において編成完結。	
			編成	
			本部	
			中隊	
			第一中隊　乗馬	
			第二中隊　自動車	
			第三中隊　自動車	
			第四中隊　戦車	
			第五中隊　自動車	
	8	13	弘前出発。	
	8	16	大阪港出帆。	
	8	19	釜山上陸	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭17	8	8	22	鮮満国境通過。
		8	26	瑷琿県神武屯着、同日より同地付近の警備。
		11	14	軍令陸甲第八五号により編成改正。
		11	25	神武屯において編成完結（第三、第四、第五中隊解隊）。
昭20		3		第五七師団主力が北九州に転用せられた際本連隊は満洲に残留した。
		3	上旬	神武屯に第一二五師団新設にともないこの連隊は第一二五師団の隷下となつた。
		5	上旬	第一二五師団が通化移駐にともないその隷下を脱し第四軍の直轄となる。
		6	下旬	神武屯出発北安省嫩江に移駐同地付近の警備。
		8	9	日「ソ」開戦にともない「ソ」軍の状況捜索に任じたが交戦することなく終戦となる。
		8	22	北安省嫩江において武装解除。
		9	12	嫩江第一作業大隊に編入。
		9	13	嫩江出発。
		9	21	黒河経由入「ソ」。

隊長　少佐　魚沢清太郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立速射砲第三〇大隊略歷

通称号　光第二六八三〇部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭20	1	16	軍令陸甲第九号により編成下令。	
	3	10	黒河省孫呉において編成完結。	
自	4	10	黒河省瑷琿に移駐（第一二五師団長の指揮下に入る）。	
至	4	18	編成状況 本部　一 中隊　三 段列　一	
	6	23	第一二三師団の指揮下に入る。	
	7	20	部隊は再び孫呉に移駐のため佐藤見習士官の指揮により各隊より約三分の一の兵力を先発隊として派遣。	
	8	9	日「ソ」開戦にともない部隊主力は独立混成第一三五旅団長の指揮下に入る。瑷琿、朝水両陣地にて交戦す。	
	8	21	孫呉において武装解除。	
	9	15	第二二、作業大隊に編入。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

9	18	孫呉出発。
19		黒河経由入「ソ」。

隊長

少佐　小川　巌

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

801

独立工兵第二九連隊略歴

通称号　満第五九四部隊　光第一八九四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭17	2	24	軍令陸甲第一五号により編成下令。	
	3	31	北支済南において編成完結。	
			人員差し出し部隊は在支混成各旅団（独立工兵第五四大隊、独立混成第三、五、六、七、八、九の各旅団工兵隊等）。	
			同日より同地付近の警備。	
	4	10	青島に移動。	
	6	15	移駐のため青島出発。	
	6	17	満支国境山海関通過。	
	6	19	竜江省富拉基着第三方面軍の隷下に入り同地付近の警備。	
	12	24	主力は冬期転地訓練参加のため富拉爾基出発。	
	12	27	満支国境山海関通過。	
昭18	12	30	南京着同地付近において冬期訓練ならびに警備。	
	4	19	原駐地に帰還のため南京出発。	
	4	22	満支国境山海関通過。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭19	4	24	富拉爾基着。
	9	15	主力は孫呉第五一号陣地構築のため富拉爾基出発。
	9	16	孫呉着、同日より同地付近において陣地構築。
	10	24	孫呉出発。
	10	25	富拉爾基着、同地付近の警備および訓練。
	12	10	主力は冬期転地訓練参加のため富拉爾基出発。
	12	12	満支国境山海関通過。
	12	15	南京着、同地付近において訓練ならびに警備。
	4	1	原駐地帰還のため南京出発。
	4	4	満支国境山海関通過。
	4	6	富拉爾基着、同地付近の警備ならびに訓練。
	12		第四軍の直轄部隊となり各地の陣地構築および架橋作業に従事。
昭20	2	11	第二中隊第三中隊の主力および第一、第四、第五、第六の各中隊より、古年次兵約四十名を差し出し第三中隊長川本中尉の指揮をもつて陣地構築のため北孫呉に移動。 この頃各中隊よりの差出人員をもつて約一ケ中隊を編成し、第二中隊長立花実中尉を長として鞍山の空襲後の復旧作業に派遣し終戦まで居た。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自至		
6	6 上旬	北孫呉派遣隊を増員す。
6	下旬	第四軍司令官の命により連隊主力（第二、第三中隊およびフラルキ残留隊を除く）は陣地構築のため北安に移動し同時に歩兵第二六九連隊第一大隊を配属せしめられた。
8	9	日ソ開戦にともない主力は哈爾浜に移動し同地所在部隊と同行動。立花中尉を長とする鞍山派遣隊は終戦後同地部隊と同行動。
8	20	一部の北安残留部隊は北安、黄家店等において武装解除。
9	3	北孫呉派遣隊、北安および黄家店にて武装解除された者は黒河経由入「ソ」。
9	初	哈爾浜において武装解除した主力は牡丹江において作業大隊を編成し綏芬河経由入「ソ」。
11	3	

連隊長

中佐　海江田貢

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第四二連隊略歴

通称号　光第一三九二八部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	3	3	軍令陸甲第三六号により編成下令。	
	4	23	黒河省孫呉において編成完結。 編成人員は電信第八連隊内地転用の残置人員約三ケ中隊（第二、第五、有線中隊、無線中隊の一部材料廠の一部）の人員を基幹として電信第十七連隊「富拉爾基」固定無線関東軍通信教育隊の人員および現地召集者等をもつて充足した。 関戦前部隊主力は孫呉に位置し、山神省以北の通信線撤収および黒河省地区の通信網の保持等に任じた。 編成 連隊本部 有線中隊　五 無線中隊　一 材料廠　一	
昭20	7	20	海拉爾方面の通信網を電信第十八連隊より継承。	
	8	9	第四軍司令部の哈爾浜に移駐にともない、第一中隊を孫呉に残置して第一二三	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		師団長の指揮下に入らしめ通信網構成に任じた。
	8 10	部隊主力は孫呉出発し次のとおり行動。 本部、第二、第三、ならびに第五中隊の主力は哈爾浜第四中隊は海拉爾（列車の運行の関係上海拉爾まで行けず新南溝陣地に入る）。 第五中隊の一部は拉哈站、嫩江、二站、山神府勝武屯北安。
	8 17	主力は哈爾浜において武装解除。
	8 24	主力は牡丹江省海林に移動同地において第一〇三作業大隊に編入。
	11 7	綏芬河経由にて入「ソ」。 第四中隊（配属無線小隊を含む）は富拉爾基において武装解除し現地部隊とともに作業大隊に編入入「ソ」。 第一中隊は孫呉において武装解除同地において第八作業大隊に編入。 第五中隊の各地派遣の分隊長以下大部の者は所在の部隊と行動を共にした。
連隊長 少佐　神野敬二		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一八野戦兵器廠略歴

通称号　光第二六三五部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭16	7	16	特臨編第一六令付第一二七ー一号により編成下令。	
	8	1	孫呉において編成完結。 （関東軍野戦兵器廠の人員を基幹として編成） 本廠　孫呉 同時に左の弾薬集積所を関東軍野戦兵器廠より引継を受け北安に出張所を開設。 二站集積所 西山集積所 呉家窩堡集積所	
昭18	8	頃	山神府に支廠を竜水に集積所を開設。	
昭20	6	1	改編により本廠を斉々哈爾に移動し孫呉および海拉爾方面の兵器の補給業務を担任。	
	7	末	各支廠出張所の編成完了 本廠直轄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭20		北安出張所
至		三軒房出張所
		嫩江出張所
8		孫呉支廠（長少佐　横尾清一）
8		竜水出張所（曹長　小西友信）
8		二站、西山、呉家窩堡集積所は孫呉支廠直轄とす。
17		海拉爾支廠（長少佐　松本圭一）
15		免渡河出張所（長曹長　柳川修三）
9		伊列克得出張所（長曹長　樋口行一）
		博克図出張所（長中尉　藤本義治）
		札蘭屯出張所（長曹長　小西友信）
		山神府支廠を閉鎖し本廠に合流せしむ。
		日ソ開戦後の本廠支廠出張所等の行動概要は次のとおりである。
		齊々哈爾本廠
		所在各部隊えの補給業務実施中停戦。
		齊々哈爾において武装解除後作業第六大隊第八大隊及び第一一、第一三、第一四大隊に編入、昭和二十年十月末ごろより逐次入「ソ」。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自	8	9
至	11	11
博克図に後退中これらの各行動群は各所において「ソ」軍と交戦し多数の損害を		
自	8	8
至	11	10
この間数個行動群に別れて興安北省海拉爾を出発して興安東省博克図に向つて後退を開始した。		
自	8	10
至		
海拉爾において戦闘に参加。		
自	8	9
海拉爾支廠		
但し軍属は停戦直後部隊と別行動している。		
竜水出張所は停戦後嫩江出張所に合流して爾後同出張所と同行動。		
遂次黒河経由入「ソ」。		
孫呉において武装解除、作業第六、第七、第一八大隊に編入、九月八日から		
自	8	9
至	17	15
所在各部隊えの補給業務実施中停戦。		
孫呉支廠		
但し軍属の大部は停戦直後部隊と別行動している。		
嫩江出張所は八月二十二日嫩江において武装解除後作業第四大隊に編入入「ソ」。		
十三日同所出発黒河経由入「ソ」。		
北安出張所は八月二十日北安において武装解除後寺坂作業大隊に編入。九月		
三軒房出張所は八月十五日齊々哈爾本廠に合流、爾後本廠と同一行動。		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

出し左のとおり武装解除した。
八月二十二日博克図において武装解除したものは作業第七大隊に編入、満洲里経由入「ソ」。
八月二十四日斉々哈爾において武装解除したものは作業第六大隊に編入入「ソ」。
九月二十四日斉々哈爾において武装解除したものは作業第一二、第一三大隊に編入入「ソ」。
免渡河出張所
八月十一日博克図出張所に合流爾后同出張所と同一行動。
伊列克得出張所
八月十三日博克図出張所に合流爾后同出張所と同一行動。
博克図出張所
八月十七日富拉爾基着。
八月十八日同地において武装解除。
八月二十日同地出発二十一日斉々哈爾着。
同地の各作業大隊に分散編入して入「ソ」。
札蘭屯出張所
八月十八日富拉爾基において博克図出張所と合流し爾后同一行動。
廠長　大佐　逸見吉次

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一八野戦自動車廠略歴

通称号　光第二六四〇部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭16	7	16	特臨編第一六令付第一二九号により編成下令。	
	8	1	孫呉において編成完結。同日より同地において自動車、部品、燃料等の補給および修理に従事。	
昭20	6	20	斉々哈爾に移駐、同時に本廠を斉々哈爾に置き左のとおり支廠、出張所を設置。 本廠（少佐　横田正男） 五福瑪出張所（少尉　三浦逸郎） 富拉爾基出張所 燃料集積所 嫩江出張所（少尉　松井和吉男） 海拉爾支廠（大尉　大河原秀元） 本部 警備中隊（小隊三） 修理中隊（小隊三） 補給中隊（小隊三）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		海拉爾地区部隊に自動車、各部品、燃料等の補給、修理および分散格能庫、師団司令部等の警備。
		博克図出張所（少尉　藤井昇）
		札蘭屯出張所（曹長　潮出文治）
		孫呉支廠（大尉　近藤義昌）
		北安出張所（中尉　萩原光忠）
		山神府出張所（曹長　芳野実）
昭20		日ソ開戦後の状況
8		本廠
8	20	齊々哈爾において武装解除。
自 9	17	作業大隊編成。
至 9	24	
自 9	20	満洲里経由入「ソ」（カダラ、アルマータ等）
至 10	3	
		五福瑪出張所
		富拉爾基出張所
8	20	本廠に合流本廠と同行動。
		嫩江出張所
8	23	嫩江において武装解除。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

9	12	作業大隊編成。
9	21	黒河経由入「ソ」（ブラゴエチエンスク） 海拉爾支廠
8	10	海拉爾出発。
8	12	博克図着、博克図出張所と合流。
8	17	博克図出発、同日午后札蘭屯着札蘭屯出張所と合流。 同日同地にて武装解除。
9	10	札蘭屯出発。
9	13	博克図着。
9	15	作業大隊編成。
9	17	同地出発。
10	下旬	満州里経由入「ソ」（カダラ地区） 博克図出張所
8	12	博克図において海拉爾支廠と合流。爾後行動を共にした。 札蘭屯出張所
8	17	同地において武装解除、海拉爾支廠と同行動。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	17	孫呉支廠 孫呉において武装解除。 作業大隊編成 黒河経由入「ソ」（ブラゴエチエンスク） 北安出張所
8	19	北安において武装解除。
9	13	北安発黒河経由入「ソ」。 山神府出張所
8	21	嫩江着嫩江出張所と同行動。 廠長 少佐 横田正男

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一八野戦貨物廠略歴

通称号　光第二六四五部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭16	7	16	特臨編一六令第一三〇～一号により編成下令。	
	8	1	関東軍野戦貨物廠の人員を基幹として孫呉において編成完結。 本廠　孫呉 支廠　山神府	
昭20	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令、	
	7	12	本廠を斉々哈爾に移駐し黒河方面および海拉爾方面の被服、糧秣等の補給業務に従事。	
	7	末	山神府支廠を閉鎖しつぎのとおり編成完結。 本廠直轄 昂々渓出張所（主少尉　戸塚貞司） 泰康出張所（主准尉　安部勝美） 嫩江出張所（主少尉　福田新太郎） 北安出張所（主中尉　永倉保一郎）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		孫呉支廠（主大尉　臼杵戊清）
		山神府出張所（少尉　井嶋昇）
		海拉爾支廠（主少佐　上原敬）
		博克図出張所（中尉　宗重彦）
		免渡河出張所（主少尉　田淵英男）
		伊例克得出張所（曹長　安藤豊久）
		開岑出張所（主曹　鈴木嘉市）
		札蘭屯出張所（主曹　久保田勇）
	8 9	日ソ開戦以後の本廠、各支廠の状況
		本廠および昂々渓、泰康出張所
	8 15	停戦。
	8 18	本廠は斉々哈爾において武装解除同地に収容。
自	8 20	昂々渓、泰康両出張所の人員は本廠に合流。
至	9 15	斉々哈爾において作業大隊編成。
自	10 8	
至	9 16	斉々哈爾出発。
自	10 10	
至	9 18	満洲里経由入「ソ」。
	10 23	嫩江、北安各出張所

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	21	嫩江出張所は嫩江において北安出張所は北安において武装解除後それぞれ所在部隊と行動をともにした。
		孫呉支廠
8	18	北孫呉花見山陣地において武装解除。
9	14	孫呉において第五作業大隊編成。
9	23	黒河経由入「ソ」。
		山神府出張所
8	10	山神府出発嫩江に移動。
8	22	嫩江出張所に合流。
8	23	同地において武装解除、所在部隊と行動をともにした。
		海拉爾支廠
8	10	日「ソ」開戦にともない博克図に後退のため海拉爾出発、管下各出張所の人員は逐次合流した。
8	16	齊々哈爾に集結のため博克図出発。
8	17	昂々渓にて武装解除後富拉爾基に収容さらに齊々哈爾に移動本廠と同行動した。
		廠長
		中佐 大竹国丸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五九師団司令部略歴

通称号　衣第二三五一部隊

年月日	略歴	摘要
昭17 2 2	軍令陸甲第八号により臨時編成下令。	
4 7	山東省済南において独立混成第一〇旅団を基幹として編成完結。	
4 12	山東省泰安に移駐。	
昭19 3 15	同日より山東省西部地区の警備ならびに作戦参加。 山東省済南に移駐。	
昭20 4 10	同日より山東省西部地区の警備ならびに作戦参加。 軍令陸甲第一八号により第八独立警備隊要員を転出。	
自7 7 7	移駐のため済南出発。	
至7 7 14	鮮満国境安東通過。	
自7 7 16	満支国境山海関通過。	
至7 9 11	朝鮮咸鏡南道咸興着。	
自7 7 18	同日より同地付近の警備ならびに定平付近の陣地構築。	
至7 7 21		
8 21	咸興において武装解除。	
9 24	興南に移動、主力は作業第一二大隊に編入。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

865の2

10

3

主力興南港出発。入「ソ」。
一部の者は作業第二一大隊に編入　され同年十二月二十六日興南港出発
入「ソ」。

師団長　中将　藤田　茂

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第五三旅団司令部略歴

通称号　衣第四二九一部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭17	2	2	軍令陸甲第八号により臨時編成下令。	
	3	26	編成着手。	
	4	8	山東省済南において独立混成第一〇旅団を基幹として編成完結。	
			同日より済南付近の警備。	
	7	15	山東省徳県に移駐。	
			同日より同地付近の警備。	
	2	3	昭和十八年軍令陸甲第一一五号により編成改正着手。	
	2	25	編成改正完結。	
	3	1	山東省張店に移駐。	
			同日より同地付近の警備。	
	7	上旬	移駐のため済南出発。	
	7	中旬	満支国境山海関通過。	
	7	中旬	鮮満国境安東通過。	
	7	中旬	朝鮮咸鏡南道咸興着。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	23	同日より同地付近の警備ならびに陣地構築。
9	24	興南において武装解除。
10	2	作業大隊編成。
10	7	興南出発。入「ソ」（「ナホトカ」）

旅団長　少将　上坂　勝

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四一大隊略歴

通称号　衣第四二九二部隊

年月日	略歴	摘要
昭17 2 2	軍令陸甲第八号により臨時編成下令。	
3 26	編成着手。	
4 2	山東省済南において、独立混成第一〇旅団を基幹として編成完結。同日より済南周辺の警備。	
4 15	張店に移駐。	
自5 1 至6 4	より約一ケ月にわたり山東作戦参加。秀岑作戦参加。	
自7 6 至7 15	移駐のため張店出発。	
自7 12 至7 18	満支国境山海関通過。	
自7 13 至7 17	鮮満国境安東通過。	
7 14	朝鮮咸鏡南道定平着。	
7 22	同日より同地付近の警備および陣地構築。	
至8 19	定平において武装解除。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自至		
8	21	富坪に収容さる。
8	24	富坪において作業大隊編成。
10	8	興南に移動。
10	25	興南出発。
10	30	入「ソ」。（ポセット）
11	2	

大隊長　大尉　栗本卓男

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四二大隊略歴

通称号　衣第四二九三部隊

年月日	略歴	摘要
昭17 2 2	軍令陸甲第八号により臨時編成下令。	
3 26	編成着手。	
4 8	山東省莱蕪県莱蕪において独立混成第一〇旅団を基幹として編成完結。同日より同地付近の警備。	
昭19 夏頃	済南に移駐。	
7 10	より九月上旬にわたり夏季山東作戦参加。	
10 下旬	より十二月中旬にわたり秋季山東作戦参加。	
昭20 1 中旬	より三月十日頃まで春季山東作戦参加。	
自至 2 1	軍令陸甲第十八号により独立警備隊仮編成のため一部転出。	
4 下旬	秀岑作戦参加。	
5 下旬		
7 中旬	移駐のため済南出発。	
7 中旬	満支国境山海関通過。	
7 中旬	鮮満国境安東通過。	
7 18		
7 23	朝鮮咸鏡南道富坪着。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	26	同日より同地付近の警備。
9	2	富坪において武装解除。
9	24	咸興に移動。
9	27	主力興南港出発。入「ソ」（ウラジオストック）

大隊長　大尉　守屋輝久

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四三大隊略歴

通称号　衣第四二九四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭17	2	2	軍令陸甲第八号により臨時編成下令。	
	3	26	編成着手。	
	4	8	山東省済南において独立混成第一〇旅団を基幹として編成完結。	
昭18	3	30	同日より同地付近の警備。 山東省陵県に移駐。	
			同日より同地付近の警備。	
昭19	3	10	山東省恵民県恵民に移駐。	
		1	同日より同地付近の警備。	
昭20	2	1	軍令陸甲第一八号により独立警備歩兵第四三大隊編成のため一部を転出。	
	3	3	より約一ケ月にわたり春季山東作戦参加。	
	5	1	より約一ケ月にわたり秀岑作戦参加。	
自	7	9	移駐のため恵氏出発。	
至	7	13		
	7	中旬	満支国境山海関通過。	
	7	中旬	鮮満国境安東通過。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

7	中旬	朝鮮咸鏡南道咸興着。
		同日より同地付近の警備。
8	20	興南において武装解除。
9	23	主力興南港出発。
9	30	主力入「ソ」（ウラジオストック）
11	3	一部入「ソ」（ポセット）

大隊長　大尉　草野　清

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四四大隊略歴

通称号　衣第四二九五部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭17	2	2	軍令陸甲第八号により臨時編成下令。	
	3	26	編成着手。	
	4	8	山東省莱蕪において独立混成第一〇旅団を基幹として編成完結同日より同地付近の警備。	
	5	2	移駐のため莱蕪出発。	
	5	4	山東省聊城県聊城着。同日より同地付近の警備。	
昭18	7	6	移駐のため聊城出発。	
	7	8	山東省臨清県臨清着　同日より同地付近の警備。	
昭20	4	27	山東省済南に移駐、同日より同地付近の警備。	
	5	15	独立警備歩兵第四五、第四六大隊編成要員転出。	
	7	15頃	移駐のため済南出発。	
	7	16頃	満支国境山海関通過。	
	7	18頃	鮮満国境安東通過。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

7	19	朝鮮咸鏡南道富坪着。
		同日より同地付近の警備。
8	23	興南において武装解除。
9	24	主力は第一二作業大隊編入。
10	3	興南出発。
10	7	入「ソ」。
		一部の者は第二、第一八、第二一大隊等に編入され昭和二十年九月二十七日より同年十二月末迄に入「ソ」。
		大隊長　大尉　原口準三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp